

2013年9月期決算ハイライト (単体)

損益の状況 (単体)

(単位: 百万円)

	平成25年 9月期	前年 同期比	平成24年 9月期
経常収益	12,702	1,256	11,445
うち資金利益	8,243	383	7,859
うち役員取引等利益	△434	136	△571
コア業務粗利益	7,644	434	7,210
△経費	5,373	8	5,365
コア業務純益	2,270	425	1,844
債券関係損益	158	△635	793
実質業務純益	2,428	△209	2,637
うち株式等関係損益	736	2,144	△1,408
うち△与信費用	160	134	26
経常利益	2,907	1,853	1,054
中間純利益	1,949	1,349	599

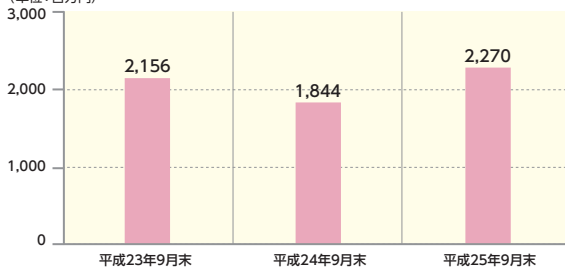
(注) 1.「コア」とは、債券関係損益、一般貸倒引当金繰入額を除く損益
 2.「与信費用」とは、不良債権処理額に一般貸倒引当金繰入額を加えた金額

平成25年度第2四半期における地元経済は、設備投資や個人消費が底堅く推移している中、一部に持ち直しの動きがみられるほか、公共投資・輸出も前年を上回り、景気回復の兆しをみせております。先行きについては、輸出や国内需要および生産における改善の動きが、設備投資や雇用・所得情勢、個人消費へ波及していく状況と、こうした循環の下における企業の価格設定行動等について、注目していく必要があります。

こうした中、当事業年度は中期経営計画2年目を迎え、各施策へ積極的に取組んだ結果、預貸金の順調な増加により、経常収益は前年同期比12億56百万円増加して127億2百万円、経常利益は前年同期比18億53百万円増加して29億7百万円の増収増益となりました。また、第2四半期純利益は前年同期比13億49百万円増加し、19億49百万円となり過去最高益を更新しました。

■ コア業務純益の推移

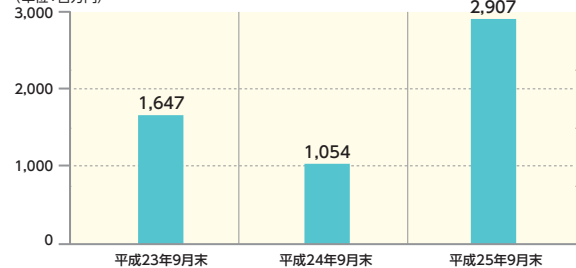
(単位: 百万円)



資金利益の増加に伴い、コア業務純益は前年同期比4億円増加しました。

■ 経常利益の推移

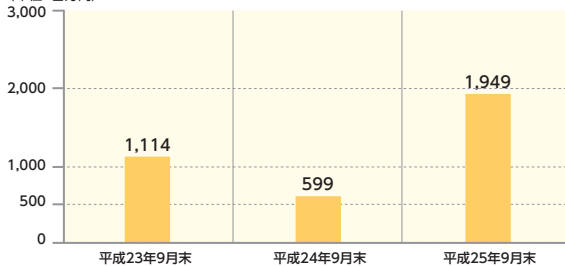
(単位: 百万円)



株式等関係損益が改善し、経常利益は前年同期比18億円増加しました。

■ 中間純利益の推移

(単位: 百万円)

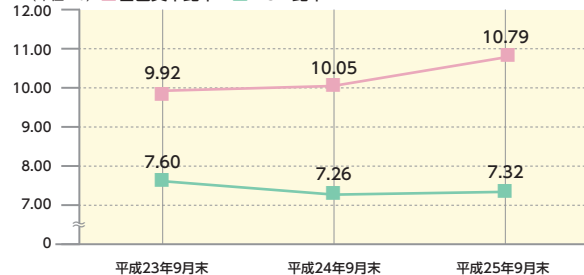


中間純利益は、前年同期比13億円増加し、19億円になりました。

自己資本比率の状況 (単体)

■ 単体自己資本比率と単体Tier1比率の推移

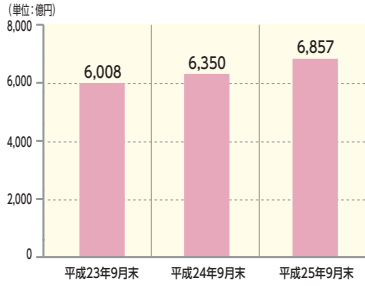
(単位: %) ■ 自己資本比率 ■ Tier1比率



単体自己資本比率(国内基準)は、前年同期比0.74ポイント増加し、10.79%となりました。Tier1比率も、前年同期比0.06ポイント増加し、7.32%となりました。

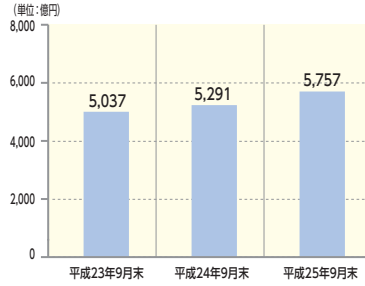
営業の状況

貸出金残高の推移



貸出金は、地元の中小企業・個人のお客さまへの貸出に積極的に取組み、前年同期比507億円増加し、6,857億円となりました。

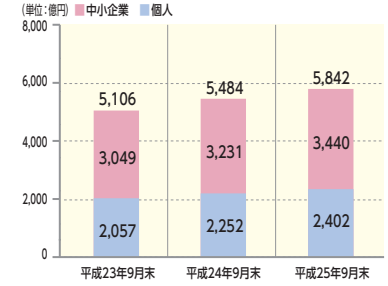
地元※貸出金残高の推移



資金の地域内循環を進めた結果、地元の貸出金残高は5,757億円となり、前年同期比466億円増加し、総貸出金の83.9%を占めています。

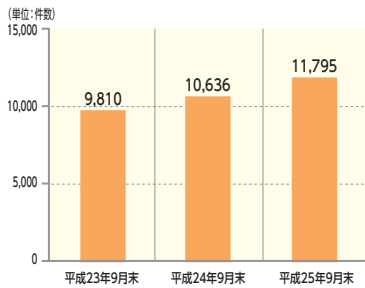
※地元（山口県、広島県、福岡県）

中小企業・個人向け貸出の推移



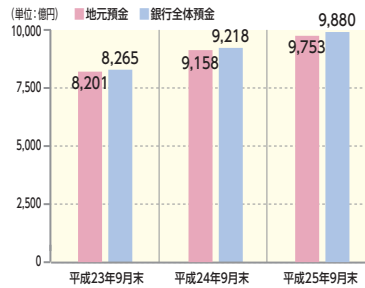
中小企業・個人のお客さまへの貸出は、前年同期比357億円増加し、5,842億円となりました。

事業性貸出件数の推移



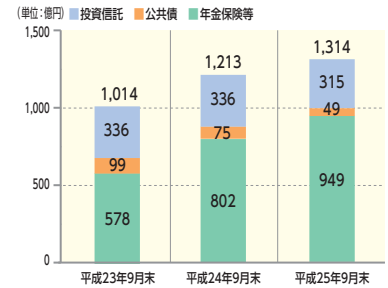
中小企業のお客さまを中心に、お客さまのニーズに合わせた幅広いサービスを展開しており、事業性貸出件数は前年同期比1,159件増加の11,795件となりました。

預金残高の推移



「復興支援定期預金」や「貯蓄預金ジャンボ利！」等がご好評をいただき、残高は前年同期比661億円増加しました。

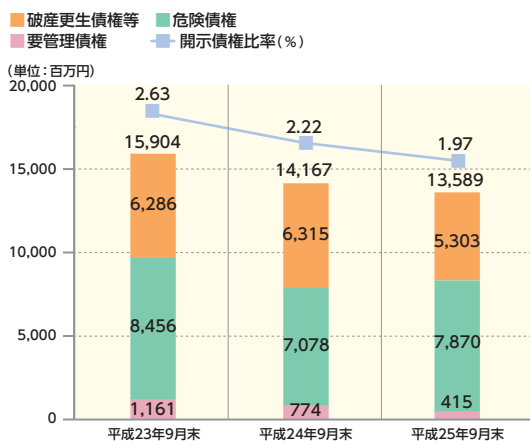
預り資産残高の推移



全13ヶ所のマネープラザを拠点に地域のお客さまの資産運用ニーズにお応えし、預り資産残高は、前年同期比100億円増加しました。

不良債権の状況

開示債権額と不良債権比率 (総与信に占める開示債権額の比率)の推移



コンサルティング機能の発揮に努めるとともに、不良債権の処理を進めたことにより、金融再生法開示債権比率は、前年同期比0.25ポイント低下し、1.97%となりました。